

普及活動へのインターネットの活用

担当普及員 平手 康 市
協力者 甲斐 哲 也

はじめに

昨年末頃からテレビ、ラジオ、新聞、雑誌等の各メディアでインターネットを取り上げており、インターネットという言葉に接しない日はないと言っても過言ではない。そこで、インターネットを実際に活用してその漁業活動との関係について考えてみた。

インターネットとは

インターネットは元々、アメリカ国防総省が防衛戦略の一環として構築した網目構造コンピュータネットワーク(図1)に始まる。編目構造は、従来のパソコン通信などの放散構造ネットワーク(図2)やLANなどの直線型ネットワーク(図3)と異なり、各情報拠点を連絡する回線が複数確保されることになり、情報の寸断を回避することを目的としていた。

その後、このネットワークの一部をアメリカの大学研究機関に解放して、距離を隔てた複数の研究機関が瞬時に情報の交換が出来るようになり研究活動の効率化が図られた。こうした研究機関のネットワーク化は徐々にアメリカ国外に広がり、日本ではまず大学がインターネットを介して海外の研究機関と情報の交換を始めるようになった。しかし、インターネットは電話回線ではない専用の回線を使用して各利用者のホストコンピュータを持続しているため、その活用にはかなりの設備投資が必要で、利用者は大学等に所属する研究者が大多数であった。しかし、最近では、個人が購入した家庭用パソコンを電話回線を経由してインターネットに継続する作業を代行するプロバイダと呼ばれる民間会社が急速に増え、個人でもイン

ターネットを活用できる環境が整ってきた(図4)。

インターネットで何ができるか

コンピュータをインターネットに接続して出来ることは、主に、電子メールの送受信、大学等の公開されたホストコンピュータへのアクセス、インターネット上に公開されているソフトウェアやデータファイルなどの取得と公開、WWW(別添資料1)で公開されている情報の検索と公開などがあげられる。また、最近では、CU-SeeMeなどのパソコンに取り付けられたビデオカメラで画像、音声で同時に複数の人と交信できるテレビ会議も可能になっている。さらにインターネット上で流通する貨幣(e-cash)の研究が進められており、これが普及すると、例えばパソコンの前座に座ったまま海外でショッピング(通信販売)ができるようになる。

この様に、インターネットに接続することにより世界中の様々な情報(商品を含む)を収集できると同時に、世界に向けて情報の発信が可能になる。インターネットによる情報発信の有利な点は従来のTV、ラジオ、新聞雑誌等の印刷物など従来のメディアに比べて、圧倒的に安い経費で、一過的ではなく随時情報を発信し続けられることであろう。ただ、前述のメディアと比較して普及率は低く(1994年でおよそ3,500万人)、しかし、最近、爆発的にインターネットの利用者は増えており2000年には利用者は10億人に達するという試算もあり、将来は、新聞雑誌、電話、テレビ・ラジオ放送に続くコミュニケーションメディアになると思われる。

インターネットと漁業

次に、漁業とインターネットの関係について考える。まず、具体的な例として水産資源保護協会（以下、資保協とする）が計画している魚類防疫データベースの活用がある。これは、資保協でデータベース化された魚類防疫に関する情報をインターネットを介して公開される計画である。またこの他に、資源管理、普及活動、漁協実践活動に関する情報も提供される予定である。また、大学関係者にはインターネット利用者が多い。専門的な質問などをすると、電話では相手方の都合に留意しなければならないが、電子メールで送れば送られた側は手の空いた時間に対応して回答をパソコンデータとして返送してくれる。

販売に関する活用方法としては、インターネットを利用した産直形式の通信販売が行われている。例えば、今が旬の魚介類を画像付きで紹介し、これをインターネットで見た顧客が、漁協等に電子メールで注文ができ、料金をクレジットカードなどで支払うと商品は直ちに発送され顧客に届けられる（別添資料1）。インターネットを用いた通信販売の有利な点は前にも述べたが、24時間受付可能であること、広告経費が安いこと、注文か

ら発送までの経費と時間が節約できることである。こうした営業活動以外では、沖縄の海に関する様々な情報を提供することにより、沖縄を訪れる観光客等を地域に導入することも考えられる。特に、エコツーリズムの関心が高まっている昨今では、沖縄の海に関する情報の注目度は高い。先日、国際サンゴ礁会議において、ハワイの漁業者がエコツーリズムガイドに業種転換を図った事による経済効果の報告があった。これによると、転換前の漁業収益は約5千万ドルであったが、転換後の収益（エコツーリズム感連収益を含む）は約6倍の3億2千万ドルになったという（別添資料2）。

おわりに

インターネットと漁業の間には一見何の関わりもないように思える。インターネットは電話やファクシミリなどと同様に、単なる情報発信及び収集の手段にすぎない。しかし、これを活用するアイデア次第では様々な有効活用が考えられるので、積極的な導入、活用の推進が図られるべきであろうし、普及活動の一環として取り組むべきであろう。

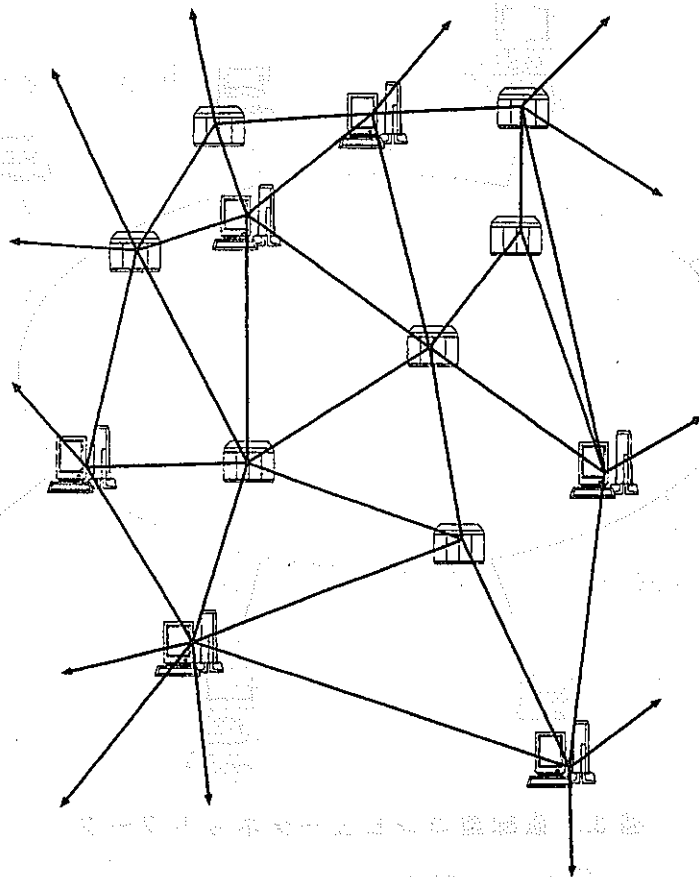


図 1. インターネットの概要

ホストコンピュータ

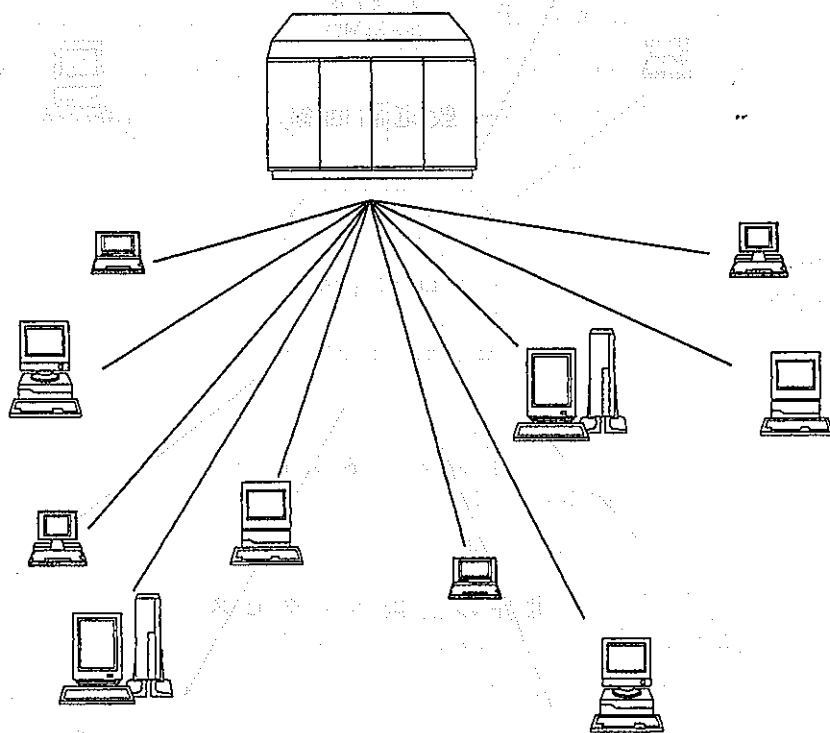


図 2. 放散型コンピュータネットワーク

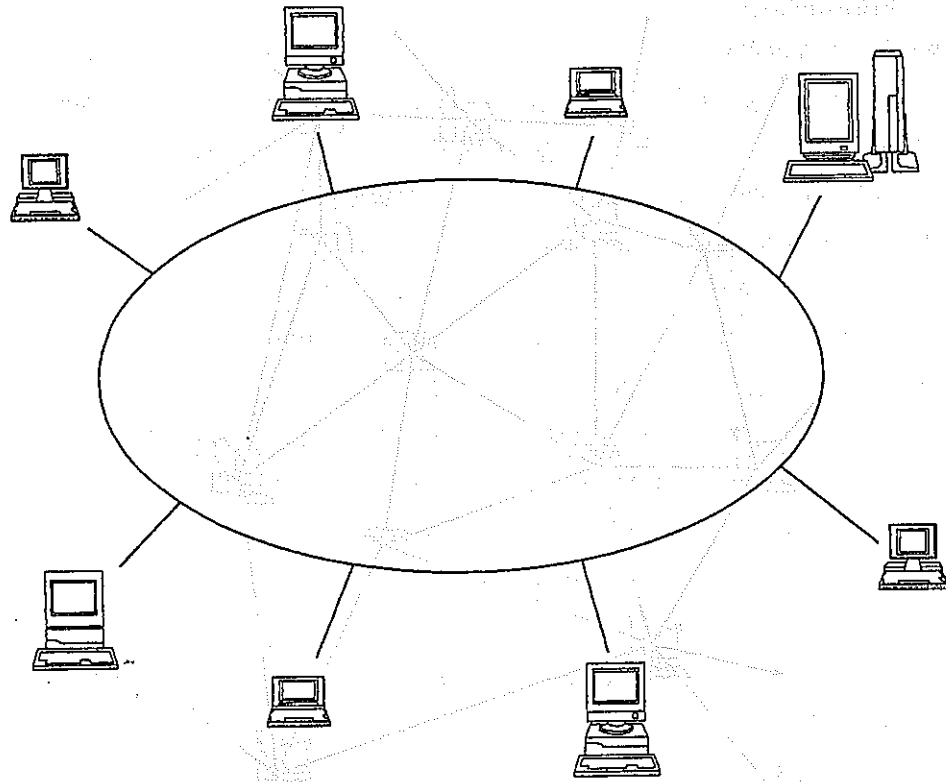


図 3. 直線型コンピュータネットワーク

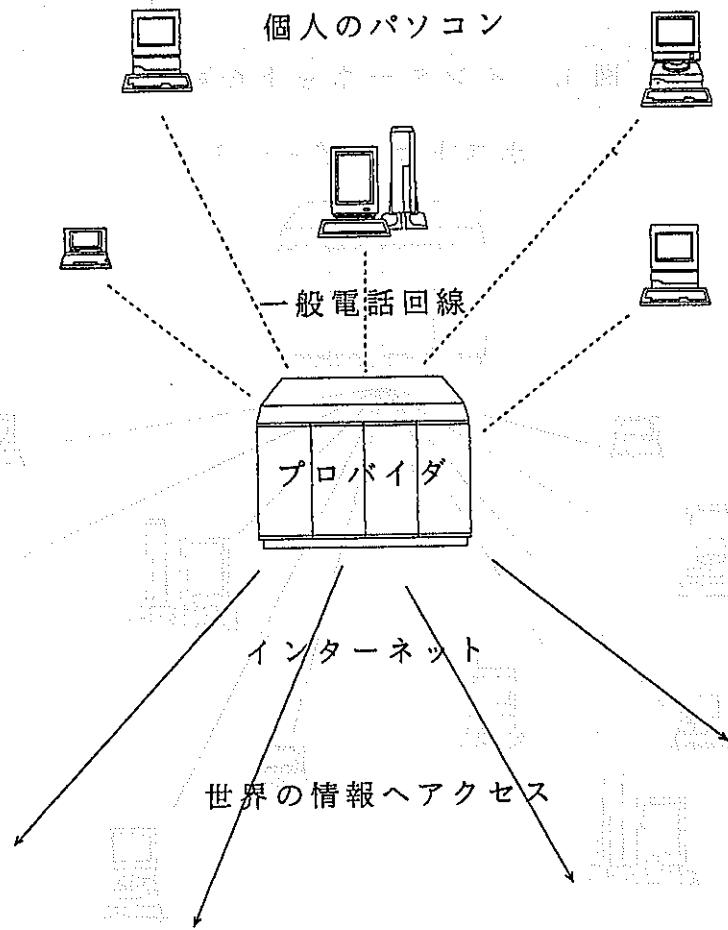


図 4. プロバイダの役割